

# 成果報告書

## I. 研究概要

氏名	スルダノヴィッチ・イレーナ
所属	リュブリャーナ大学文学部アジアアフリカ研究科（助教授）
招聘回（招聘期間）	第7回、2012年10月～2013年10月
招聘研究テーマ	日本語教育における語の共起関係
研究目的	本研究では、「形容詞＋名詞」の組み合わせによるコロケーションに焦点を当て、 <b>BCCWJ・JpTenTen</b> という2つの現代日本語コーパスからコロケーションを取り出し、1)「形容詞と名詞のコロケーションデータ」、2)「日本語教育のための形容詞と名詞のコロケーション辞書」の2種のリソースの作成方法を提示し、日本語教育への応用方法を示すことを目的とした。
研究概要：	<p>近年、日本語のコロケーション辞典など、コロケーションを記載したリソースも現れてきたが、現代日本語の大規模コーパスを用いた記述的コロケーションデータはまだない。また、直感と経験に基づいて作成された日本語教科書などの教育用の教材においても、コロケーションに関しては注目度が低い。そこで本研究では、「形容詞＋名詞」の組み合わせによるコロケーションに焦点を当て、<b>BCCWJ・JpTenTen</b> という2つの現代日本語コーパスからコロケーションを取り出し、1)「形容詞と名詞のコロケーションデータ」、2)「日本語教育のための形容詞と名詞のコロケーション辞書」の2種のリソースの作成方法を提示し、日本語教育への応用方法を示した。</p> <p>1)の「形容詞と名詞のコロケーションデータ」は、500語の形容詞を対象にして、シンタクスを考慮に入れて抽出した名詞とのコロケーションおよびその前後文脈をコーパスごとに整理し、比較できるようにするものである。現時点では、100億語のコーパス<b>JpTenTen</b>から取り出した500語の形容詞とその名詞とのコロケーションデータ（23247語）を取り出すことができた。</p> <p>2)の「日本語教育のための形容詞と名詞のコロケーション辞書」は、すべての形容詞の62%をカバーする25語の基本的な形容詞について詳細に記述することを目指している。そこで、高頻度の形容詞「高い」を取り上げ、コロケーションデータの分析結果を提示し、前述の「形容詞と名詞のコロケーションデータ」を基にした「日本語教育のための形容詞と名詞のコロケーション辞書」の基盤作りを示した。能力レベルによって分類された辞書項目は、被修飾名詞の語彙マップを作成したり、ジャンルごとの特有な情報を併記したりして、学習者の学習困難なコロケーションに焦点を当てて記述した。</p> <p>最後に、これらのデータが示唆する様々な理論的・応用的研究の発展可能性について検討した。本稿の主な意義は、従来存在しなかった、日本語学と日本語教育に利用できるコロケーションデータの作成およびその方法論を提案した点にある。作成しているリソースは、客観的なデータに基づいた形容詞と名詞の組み合わせの記述であり、今後の研究のために様々な理論的、応用的な可能性を持っている。</p>
展望：	今後の発展として、諸言語と日本語のコロケーションデータベースの作成が挙げられる。言語間の共通点と差異、多言語から見た予想しにくいコロケーションの検討を、次の目標にしていきたい。また、応用的な側面として、得られたデータを、既存の日本語教科書におけるコロケーション関係と比較し、現在の日本語教育におけるコロケーションの扱いを検討することが考えられる。なお、誤用情報を付与した多言語の学習者コーパスの構築と共に、コロケーションに関する学習者の誤用の検討を取り入れることが考えられる。